

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3474400375		
法人名	有限会社 かがやき		
事業所名	かがやきホーム新湯野		
所在地	広島県福山市神辺町新湯野19番地1		
自己評価作成日	平成23年8月18日	評価結果市町村受理日	平成23年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成23年9月12日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

一人ひとりの自尊心やプライドを傷つけないように、どんな状態になられても人として尊厳を守り、触れ合いを大事にして、不安なく笑顔が見られるようなケアを心掛けている。建物は木造土壁で吹き抜け天窓のある平屋建てで、落ち着いた雰囲気の中で生活が出来、各居室にはトイレと洗面所を設置しているので、いつも気兼ねなく居室のトイレで排泄や処置が出来るため、他の入居者の目に触れることなく、いつも清潔で快適に過ごして頂けるようにしている。家族との信頼関係もあり、地域の方々との交流も盛んで、行事等にも気持ち良く協力して貰えるので、より一層地域に根付いたホームを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ひときわ目を引く重厚な建物は壁や床材に配慮し利用者にとって心地よく過ごすことができる。事業所が目指すサービスのあり方を理念に示し、毎朝、職員と一緒に利用者が唱和している。日頃から家族との関わりを大切に、年4回家族参加の行事には参加者も多い。またホームだよりは事業所全体の取り組み内容や一人ひとりの日頃の状況を詳細に記録し、個別写真の掲載もあり充実した内容となっている為、日頃の状態の把握もでき家族にとって安心感がある。受診の支援は全て事業所が細かく対応され、内容については家族と共有されている。現状に満足することなく常に質の向上に意識を持って取り組まれると共に、利用者とその家族・地域住民とのつながりも良好で、これからますます地域で期待される事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、入居者を交えて理念を読む事により、共有、認識し、行事、イベント時には、地域の方々へボランティアのお願いや、参加のチラシを配っている。奉仕活動を取り入れている。	利用者と職員は毎朝一緒にラジオ体操をし、利用者を第一に考えて作られた理念を利用者と共に唱和している。管理者と職員は、具体的に示された理念を、日々の暮らしの中で共有し、サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所行事の参加や園児のホームへの訪問、散歩時の挨拶、ゴミ拾い、民生委員さん、老人会の方々への声掛けにより、なじみの関係を作り、交流を深めている。	事業者が地域住民との交流に積極的に取り組んでいるので、近隣の人々と触れ合う機会は多い。保育所が近く園児との交流、地域の学童見守り隊に参加し小学生との触れ合い、中学生のホーム訪問で柏餅やお手玉作りをし良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバン・メイトのいるホームとして、地域の方に伝えている。入居の相談やホームの見学時に、認知症の家族の相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族や、地域の方、民生委員、老人会の方、地域包括支援センターの職員、市の職員さんの参加で、ホームの取り組みや入居者の状況を報告し、色々と意見を頂けるので、サービスに活かされている。	利用者家族2名と各メンバー約10名で構成され、事業所の現状を報告し、今後の取り組みを話し合っ活発な意見を貰っている。会議後、都度行政に議事録を提出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃からなかなか連絡は密に取れない。介護相談員の要請をお願いして、10月から実践していく。	市町村に介護相談員派遣を10月からお願いしている。介護保険課とは必要に応じて電話でやり取りをし、市町村担当者からの最新情報をメールで入手しサービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は施錠をしないことや全員ミーティングや研修で理解をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	一人ひとりのその日の状態をきめ細かく把握し、外出の癖や傾向を掴んで対応している。出て行く気配を見落とさず、見守りや連携プレーを重視している。言葉を遮ったり、気持ちを押さえつけず、さりげない声かけの取り組みをしている。研修を実施し正しく理解するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティング、申し送り等で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会はあるが、活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時等では、利用者や家族に十分時間をかけて、理解や納得をして頂ける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席や行事に参加して頂き、職員とのコミュニケーションを図れる機会を作っていく、運営に取り入れている。	家族の面会時にはリビングで一緒にお茶を飲み、何でも言ってもらえるような雰囲気を作っている。利用者の誕生日を家族と一緒に祝い、年4回行事の出席や運営推進会議への順次出席を家族にお願いし、意見を聴く機会を設けている。家族の意見が力となり、運営に反映させている。、	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関することの見解等は聞く機会を設けていない。	サービスに関する職員の意見や要望はリーダーに伝え、リーダーからホーム長に伝えている。ミーティング時や個人面談の時には活発に意見を言い、話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績等を把握し、向上心を持って働ける環境や条件等を提示し、各自に聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量を把握し、その人にあった研修を受ける機会を設け、職員が向上心を持って働ける様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークで、研修等の案内をして頂き、勉強会に参加している。また、複数事業所連携・福山に賛同し、勉強会等に参加して、知識や技術を習得して、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して生活ができるよう、不安な事や要望等何でも言える雰囲気作りに心掛けて、傾聴する事で、信頼関係が生まれるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事や不安な事、要望等何でも言える雰囲気作りに心掛けて、傾聴する事で、安心して預けて頂けるように、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活の中で、本人がしていた事、出来る事を見つけて、日々の中に取り入れていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは、職員と一緒に手伝って頂き、感謝の気持ちを大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはコーヒーをお出しし、また、年間行事、本人の誕生日会に出席して頂くように案内し、本人と一緒に会食やお話をしながら過ごして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が生活されていた地域や行って見たい所を尋ねて、ドライブに出かけたり、近所の友人等が面会に来られた時は、一緒にコーヒーを飲みながら、ゆったりとした時間を過ごせるように努めている。いつでも来て頂ける様に面会時間は決めていない。	地域に暮らす親類や知人・友人が訪問してくれた時は湯茶を提供しゆっくりとしてもらえるような雰囲気となるよう心掛けている。また、馴染みの場所へドライブに出かけて行くこともしばしばある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で出来るレクリエーション等を行い、孤立しない様に職員が中に入り、利用者同士の関係が築ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院に成り退所されても、お見舞いに行っている。亡くなられても、報告して下さるので、通夜や葬儀に出席し、心情をお察している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その場面場面で思いに添った支援をしている。本人の意に沿わない時には、距離を空けて、人を変えながら、タイミングを図り、思いに添うように対処している。	「本人はどうか」という視点に立ち、日々の行動や表情をきめ細かくチェックし、思いの把握に努めて希望に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしや生活環境を本人やご主人、子供さんに尋ねたり、利用されていたサービス事業所にも情報を提供して頂き、経過等の把握をするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックで身体状況や、一日の中でも、顔色や表情、食欲があるか等、職員同士状況を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りで職員の意見や、生活の中での気づきや本人の要望、面会時には家族に気づき等を聞き、本人が楽しく、安心して暮らせるために現状を把握し、介護計画を立てている。	職員は利用者の何気ない言葉や行動、気付きを詳細に日誌に記入している。それを基に本人や家族の意見を取り入れ介護計画を作成している。申し送りで職員は共有をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人のしぐさや言葉、ケアでの気づき、排泄等日々の様子を時間と一緒にきめ細やかに個人記録に記入して、連携を密にし、職員間で情報を共有する事で、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況が日々変動している現状を把握しながら、既存のサービスが今の本人に必要なものであるか等をその時その時で柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや老人会、保育所等と交流をしている。利用者一人ひとりが地域の一人として認められ、見守りをして頂きながら楽しく生活が来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医に何でも相談ができ、アドバイスが頂ける信頼関係が出来ているので、安心して受診出来ている。	受診はかかりつけ医・協力医院・歯科・眼科も、普段の様子や変化を伝える事が出来る事業所が全て対応している。一人ひとりの受診状況を把握し、受診結果は受診報告書を作り、家族に報告をしている。入院時にも頻回に出向き状態の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細やかな介護で、初期症状の発見を見逃さず、直ぐに看護師に伝えている。症状を見極めて、受診しないといけない場合は、直ぐに受診をするようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医や看護師、療法士等と情報交換を密にし、定期的に面会に行き、代表やホーム長、看護師、家族間で治療方法や状態の変化を把握出来る様に、面会時には顔なじみになるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方について意向を聞いている。看取りには家族等の協力も必要不可欠である事や、病院関係者の協力もお願いしていることを説明し、皆で支援出来る様な取り組みをしている。	利用者や家族の意向を踏まえ、状態変化があればカンファレンスを開催し細かく方針の共有をしている。医師の指示を仰ぎながら、家族・看護師・職員等と連携を図り、チームで支援している。実際に看取られたケースもあり反省点を踏まえ今後につなげていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作り、皆が実践出来る様、看護師の指導で見付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方や入居者の家族、職員と一緒に、昼夜の避難訓練を度々行っている。全職員や地域の方、家族と一緒に訓練する事で、ホーム内の構造や入居者の状態を知って頂き、安全に避難が出来るように協力体制が出来ている。	年2回利用者や家族と共に訓練を行っている。色々な災害を想定し具体的に避難方法や物資の協力先を明確に決め各ユニットのよく見える場所に避難経路を掲示し、万全の体制となるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけない言葉掛けや、プライド、プライバシーを損なわないように対応している。	朝の申し送り時に利用者への対応を話し合う。常に利用者の尊厳を重視し、呼びかけるときは名字できちんと声かけしている。排泄時の声かけについても配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや望みを表現できるよう、職員はその都度伺いながら、自主的に出来る環境づくりに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状態を把握して、何を望んでいるかを尋ねて、その人のペースを保ちながら希望に添って過ごして頂く様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着たい服を選んで頂くようにしている。選んで着れない時は、何点かを出して選んで頂く様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が何を食べたいか、どんな料理方法が良いかを尋ねてたり、味見をして貰い、一緒に盛り付けや片づけ等を行っている。	利用者と職員と一緒に食事を味わいながら、利用者にとって食事が楽しいものになるような穏やかな声かけで、各々にあった支援をしている。旬の食材や新鮮なものを採り入れ、利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取、栄養のバランス、水分のチェックを記入し、一日を通じて摂取量が確保出来るよう、こまめにチェックを行ない、健康状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る人は自分でして頂き、出来ない所をお手伝いし、出来ない人は、職員が歯ブラシやハミンググッドで口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンをつかみ、出来るだけトイレで排泄が出来る様、時間を決めて早めのトイレの声掛けや誘導を行ない、トイレでの排泄が習慣化し、失敗やパッド交換が少なくなるように行っている。	個々のパターンを把握し、昼間はパットを上手く利用し早目の誘導に心掛け自室トイレでゆっくり用を足してもらっている。夜間もトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜やきのこ類、海藻類等を取り入れたメニューを考えて、定期的に排便が出来るように気を配り、水分も一日の摂取量が達成出来る様、工夫を凝らしている。また、しっかり歩行訓練を行い、腸の蠕動運動を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間や曜日は決めているが、毎日入浴を希望される人は入って頂いたり、入浴を拒否される人はタイミングを図って入ってシャワー浴など、その時々気分に応じて対応している。	希望を優先し最低でも週3回は入ってもらい清潔保持に努めている。無理強いすることなく職員間で連携を取り個々の状態に合わせた対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々身体状況に応じて、昼寝をして身体を休めて頂いている。温度管理に気をつけて、安眠出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬の処方箋をつけて、どんな薬を飲まれ、副作用や用量等を理解している。服薬時には本人の名前等を読上げ、飲込むまで確認している。薬が変わったり、用量が変わった時には、症状の変化を観察するように申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの誕生日に家族を招待して一緒に誕生日会を行ない、会食したりして過ごしたり、レクリエーションにはその人に合ったメニューを取り入れたり、ドライブや保育園児との交流で楽しく気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や利用者の体調等をみて、ドライブに出かけている。家族が散歩やお墓参り、一時帰宅等は協力をして下さる。	近くの公園までゴミ拾いしながら散歩に行くことやまた敷地内を散歩し気分転換を図っている。家族が参加し花見などの外出や、希望で家族と外出する事もある。地域の学童見守り隊に時折加わり、小学生と挨拶を通して、触れ合っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切は分かるが、紛失すると物盗られで、他の利用者や職員への不信感やわだかまりが生まれると楽しいホーム生活が出来なくなるので、家族にも理解して頂き、お金は所持して頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の折り紙をはがきに貼って便りを書いて頂いたり、行事には案内のはがきを書いて、かがやき便りと一緒に送付している。本人が電話したいと言われた時には、掛けてお話出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランタンに花や野菜を植え一緒に収穫をしている。共有スペースは吹き抜けの天井で開放感があり、明るく、利用者の作品を飾るなど、落ち着いた環境を工夫している。	共用生活空間は色や光の刺激がなく柔らかく、天井が高いので空気の流れがよく、天窓も設えられており、全体がソフトな明るさで包まれている。威圧感のない居心地よい場となっており、落ち着いて過ごせる雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寝転んだり、足を投げ出せるように和室を設けている。リビングでは好きなところに移動して頂き、落ち着いたように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや写真、押し花教室や折り紙教室で作った作品や、馴染みのものを飾って、居室が落ち着いた場所であるようにしている。	各居室にトイレと洗面所が設置されているので、プライバシーが守られ、居心地よく、安心して過ごせるように配慮されている。それぞれの利用者に応じた持込をし、その人らしく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器や老人カー、廊下に手摺りをつけて安全に歩行が出来、利用者にとって危険な物は、目に付かない場所や目隠しをして、安心して生活出来るような環境づくりに努めている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19	面会の少ない家族に本人の現在の状態を把握して貰いたい	家族と本人のふれあいの時間を有意義に過ごして頂く	少なくとも月1回は食事やおやつ時に一緒に食べたりレクリエーションを一緒に行ってもらえる時間帯に来て頂けるように願います。年行事も今まで通り参加しやすい休日に行う	6カ月
2	36	一人ひとりのプライドを傷つけないような言葉かけや気配りをしていると思っても急に不穏になり他動や暴言が出る	本人のプライドを傷つけないよう言葉使いや口調に気をつける	プライドを傷つけない言葉かけが行えたか申し送り時に話し合い不穏になった時の状況を共有する	3カ月
3	49	日常的外出支援は入居者の重度化により自立歩行の方が少なくなっている為毎日の散歩が難しい	ドライブや散歩の曜日を定める	自立歩行の人、手引き歩行の人、車いすの人を何名かずつに分けて行う ドライブは家族にも願います	3カ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。